大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

女子大学生のHPVワクチン接種意思とセクシュアリティに関する認知・行動
～ 看護系と一般学部生の比較 ～

© Osaka Metropolitan University All Rights Reserved.

大阪公立大学大学院看護学研究科 実践看護科学領域
家族支援看護科学・母性看護・助産学
髙 知恵

背 景 ； 子宮頸がんとは

大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

- 子宮頸がんは、子宮の頸部という子宮の出口に近い部分にできるがん
- 子宮頸がんは、全世界的に女性のがんの中で4番目に多い

(World Health Organization ;WHO, 2022)

- 子宮頸がんは、human papillomavirus (HPV)の感染が主な原因

(Centers for Disease Control and Prevention ;CDC, 2021)

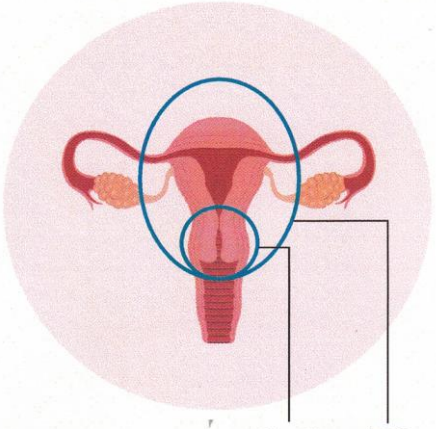
- HPVは主に性行為によって感染するが、そのうちの90%以上が自然消失する

(World Health Organization ;WHO, 2022)

- 子宮頸がんは他のがんと異なり、20歳代から発症し、40代、50代で最も罹患率が高い

(国立がん研究センター, 2018)

- 子宮頸がんは、早期に診断し、速やかに治療を行えば完治できるがん



厚生労働省：小学校6年～高校1年相当の女の子と保護者の方へ大切なお知らせ 詳細版より引用

子宮けいがんとHPV

大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

HPV

性交渉により感染する
約９０％の女性が一生に一度は感染する

ハイリスクHPV

↓

約１割に持続感染

↓

前癌病変
（異形成：軽・中・高）

↓

子宮頸がん

10年程度の期間を経て子宮頸がんを発症

EPARKくすりの窓口より引用

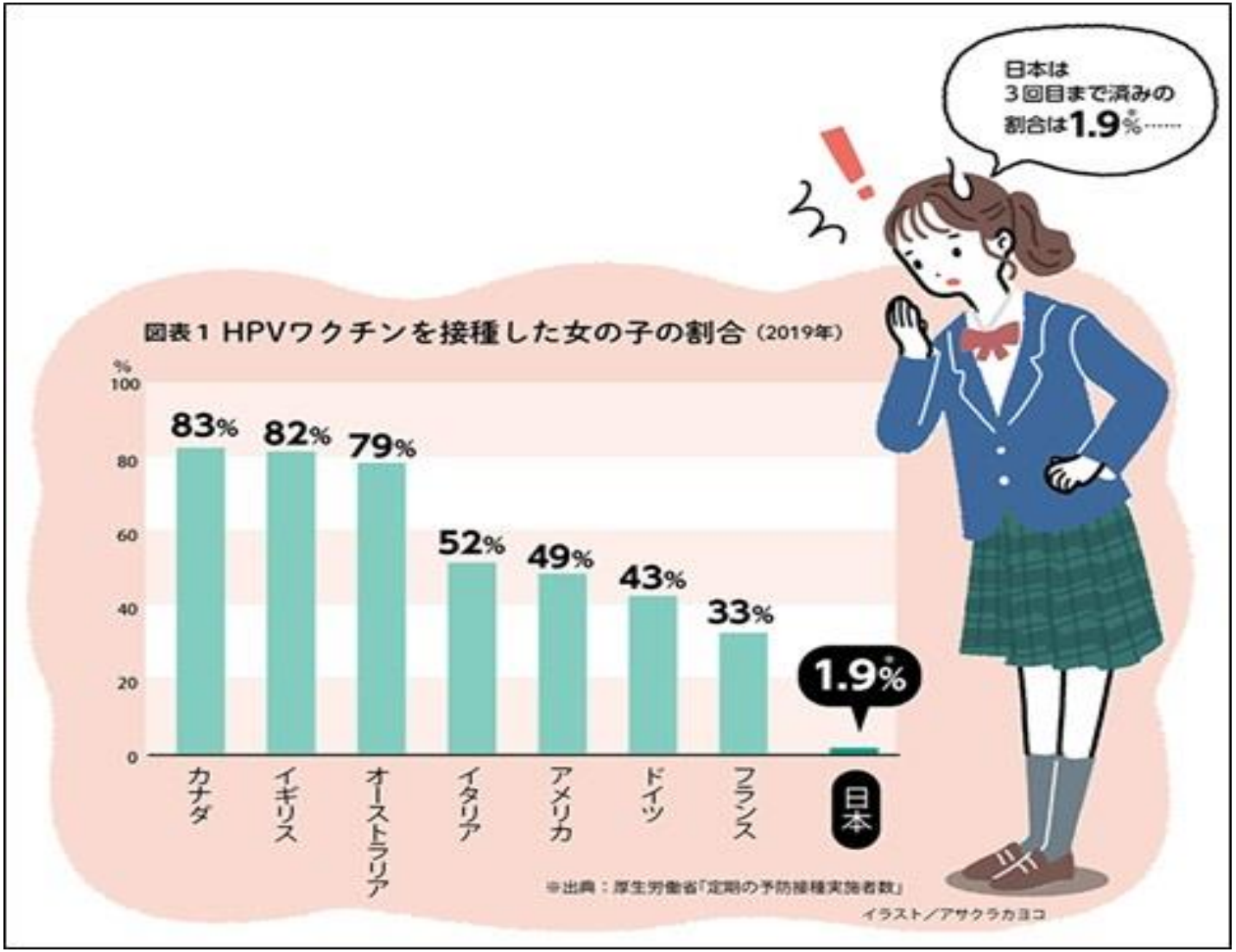
背 景 ；HPVワクチンについて ～2022年3月

大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

- HPVワクチンは、HPVにさらされる前に接種するのが最も効果的
- WHOはほとんどの人が性行為を開始していない9歳から14歳の女児への
  ワクチン接種を推奨 (World Health Organization ;WHO, 2022)
- 世界的にHPVワクチン接種は推奨されているが、日本ではその接種率が極めて低い
- 日本では、2009年10月にワクチン承認、同年12月に医療機関での接種が可能となる
- 政府は、子宮頸がん等ワクチン接種緊急対策推進事業として2010年11月から、
  HPVワクチン接種の公費負担を開始 （厚生労働省：2015）
- その後、2013年改訂予防接種法においてHPV感染症をA類疾患に定義、同年4月から
  小学校6年生～高校1年生を対象とした定期接種に組み込んだ （厚生労働省：2015）
- しかし、HPVワクチン接種後の副反応が社会問題化し、わずか3カ月で接種推奨を
  差し控え、同年6月からは積極的な推奨はなされていなかった

海外と日本のHPVワクチン接種の現状

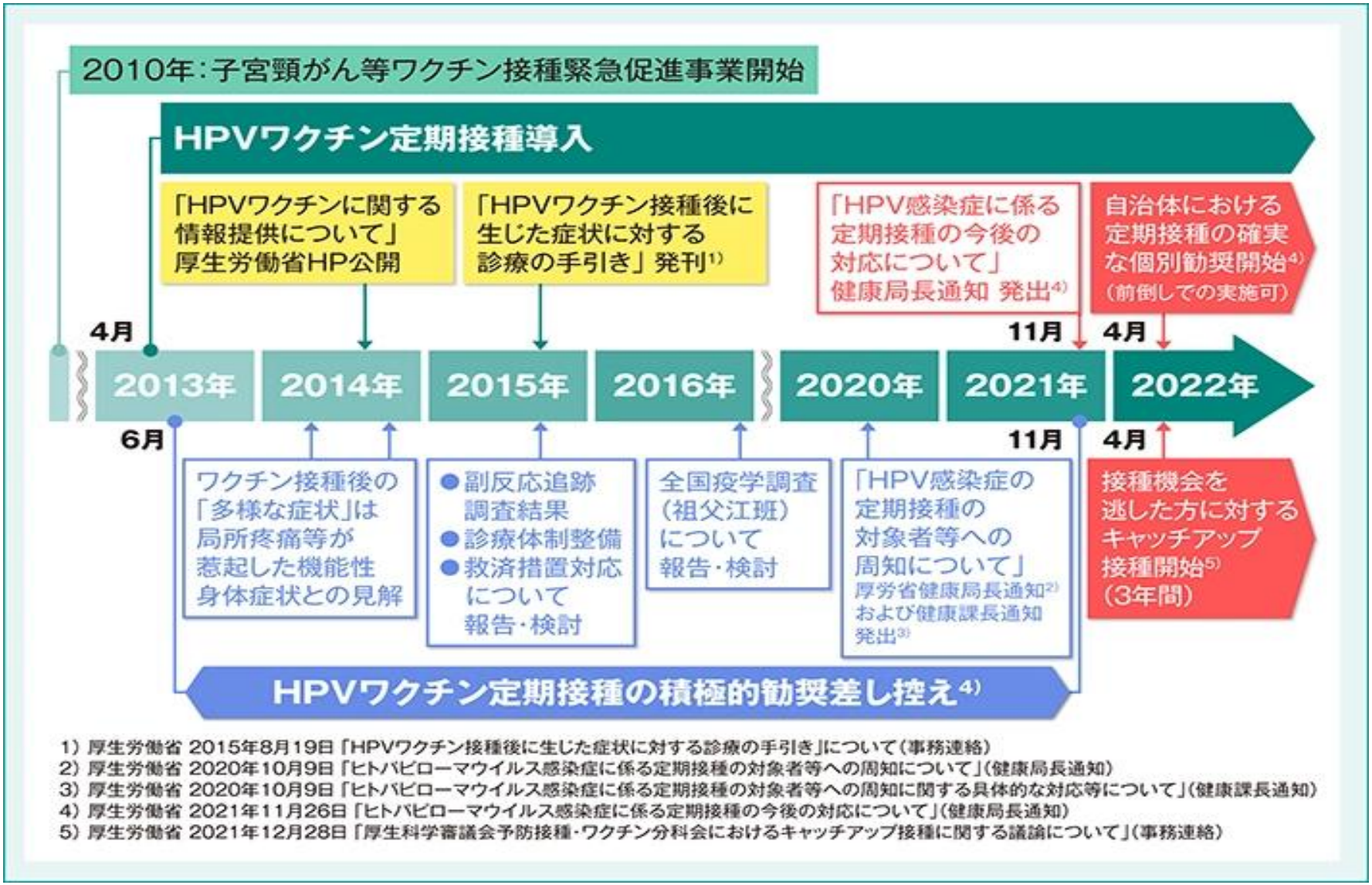
大阪公立大学
Osaka Metropolitan University



厚生労働省, HPVワクチンについて知ってください,子宮頸がん予防の最前線 (2022)
https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou_kouhou/kouhou_shuppan/magazine/202205_00001.html (Accessed 01/06/2022)

日本のHPVワクチンの現状

大阪公立大学
Osaka Metropolitan University



MSD Connect，解説コラム，日本のHPVワクチンの現状，
https://www.msdconnect.jp/products/gardasil-silgard9/column/jp-hpv-vaccine/ (Accessed 01/06/2022)

背 景 ；HPVワクチンについて　2022年4月～

大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

- 自治体における定期接種の確実な個別勧奨開始
  （厚生労働省:2021年11月26日健康局長通知,ヒトパピローマウイルス感染症に係る定期接種の今後の対応について)
- 接種機会を逃した方に対するキャッチアップ接種開始
  （厚生労働省:2021年12月28日,厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会におけるキャッチアップ接種に関する議論について)
- 1997年度～2005年度生まれの女性が対象（9学年分の救済）
- 2022年4月～ 自治体が対象女性へ予診票を送付
  キャッチアップ期間は3年間　（厚生労働省：2022）
- 2022年4月～ テレビCM （MSD製薬）

HPVワクチンの接種を逃した方に

大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

2022年3月

【 平成9年度生まれ～平成17年度生まれ 】までの女性へ

大切なお知らせ

HPVワクチンの接種を逃した方に
接種の機会をご提供します

・平成9年度生まれ～平成17年度生まれ（誕生日が1997年4月2日～2006年4月1日）までの女性の中に、小学校6年から高校1年の頃に、HPVワクチンの接種の機会を逃した方がいらっしゃいます。
・まだ接種を受けていない方に、あらためて、HPVワクチンの接種の機会をご提供します。

このご案内は、既に接種を受けた方にも届くことがあります。
接種を受けたかどうかは、母子健康手帳などでご確認ください。

ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

対象となる方々について

・次の2つを満たす方が、あらためて接種の機会をご提供する対象となります。

➡ 平成9年度生まれ～平成17年度生まれまで（誕生日が1997年4月2日～2006年4月1日）の女性
➡ 過去にHPVワクチンの接種を合計3回受けていない

※ この他が、平成9～9年度生まれの方に、通常の接種対象（小学校6年から高校1年相当の年齢を超えても、令和7（2025）年3月末まで接種できます。

・過去に接種したワクチンの情報（ワクチンの種類や接種時期）については、母子健康手帳や予防接種済証等でご確認ください。

■ なぜ、あらためて、接種の機会が設けられるのですか？

・HPVワクチンの接種を個別にお勧めする積極が差し控えられていた間（※）に、定期接種の対象であった方々の中には、ワクチン接種の機会を逃した方がいらっしゃいます。
・こうした方に、公平な接種機会を確保する観点から、あらためて接種の機会をご提供しています。

※ 接種後に報告された多様な症状等について十分に情報提供できない状況にあったことから、平成25年から、令和3年まで、積極的な勧奨を差し控える取扱いを一時的に差し控えていました。
令和3（2021）年11月の専門家の会議で、安全性について有効の意志が認められないことがあるためで総認され、接種による有効性が副反応のリスクを明らかに上回ると認められたことから、積極的に接種をお勧めする取扱を再開することになりました。

■ 過去に、1回のみ接種した場合や、2回のみ接種した場合にも対象となりますか？

・HPVワクチンは合計3回接種します。1回接種したことがある方は残り2回、2回接種したことがある方は残り1回、公費で接種を受けることができます。

接種可能な時期について

上記の対象者に、令和4（2022）年4月～令和7（2025）年3月の3年間、公費で接種できます。
3回の接種を完了するまでに十分な期間が設けられていますが、希望される方は、なるべく早く接種しましょう。

接種するワクチンの種類とスケジュール

公費で接種できるHPVワクチンに2種類（サーバリックス®、ガーダシル®）あります。
決められた間隔をあけて、同じワクチンを合計3回接種します。

※ 現在公費で接種できるのは2価・4価のワクチンです。9価のワクチン（シルガード9®）は公費接種の対象ではありません。
※ 1回目、2回目に気になる症状が現れた場合は、2回目以降の接種をやめることが出来ます。

一般的な接種スケジュール

※ともに、1回目から間隔を空けることが望ましい。

HPVワクチンの接種を逃した方に

大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

子宮頸がんとは？

- 日本では毎年、約1.1万人の女性が子宮頸がんにかかり、約2,900人の女性が子宮頸がんで亡くなっています。
- また、若い年齢層で発症する割合が比較的高いがんです。患者さんは20代から増え始めて、30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう（妊娠できなくなってしまう）人も、1年間に約1,000人います。

▶ 子宮頸がんにかかるのはなぜ？

- 子宮頸がんは、子宮の頸部という子宮の出口に近い部分にできるがんです。
- HPV（ヒトパピローマウイルス）の感染が原因と考えられています。
- 感染は、主に性的接触によって起こり、女性の多くが一生に一度は感染するといわれています。

子宮頸がんで苦しまないために

できることが2つあります。HPVワクチンを受けた方も、検診をお忘れなく！

1. **HPVワクチン** ▶ HPVの感染を予防します
2. **子宮頸がん検診** ▶ がんを早期発見し治療します ▶ 20歳以上の方は、2年に1回

- ワクチンで防げないHPV感染もあるため、子宮頸がん検診を定期的に受診することが大切です。
- HPV感染は主に性的接触により起こります。パートナーと共に性感染症の予防を忘れずに。

HPVワクチンの効果とリスク

- HPVワクチンは、HPVの感染を予防します。また、子宮頸がんを予防する効果があることも分かってきています。公費で受けられるHPVワクチンは、子宮頸がんの原因の50～70%を防ぎます。
- HPVワクチン接種後には、接種部位の痛みや腫れ、赤みなどが起こることがあります。まれに、重いアレルギー症状や神経系の症状が起こることがあります。また、広い範囲の痛み、手足の動かしにくさ、不随意運動（動かそうと思っていないのに体の一部が勝手に動いてしまう）といった多様な症状が報告されています。

※ 接種後に体調の変化が現れたら、まずは接種を受けた医療機関などの医師にご相談ください。HPVワクチン接種後に生じた症状の診断に係る協力医療機関をお住まいの都道府県ごとに設置しています。協力医療機関の受診については、接種を受けた医師または市町村の窓口にご相談ください。

■ 定期接種の対象年齢（高校1年相当まで）を過ぎても、接種の効果はありますか？

- 16歳頃までに接種するのが最も効果が高いですが、それ以上の年齢で接種しても、ある程度の有効性があることが、国内外の研究で示されています（※）。
- なお、定期接種の対象年齢を過ぎてからの接種について、明らかな安全性の懸念は示されていません。

※ ワクチンが子宮頸がんを予防する有効性は接種時に16歳以下の接種で最も高いものの、20歳頃の初回接種までにはある程度の有効性が保たれることや、性交経験がない場合はそれ以上の年齢についても一定程度の有効性があることが示されています。
性交経験によるHPV感染によって、ワクチンの予防効果が低下することが示されていますが、性交経験がある場合でも、ワクチンの予防効果がなくなってしまうわけではありません。

▶ ワクチンの安全性の確認について

接種が原因と証明されていなくても、接種後に起こった健康状態の異常について報告された場合は、部会（ワクチンに関する専門家の会議）において一定期間ごとに、報告された症状をもとに、ワクチンの安全性を継続して確認しています。

接種方法について

- 住民票のある市町村からのお知らせをご覧ください。
- 過去に受けた接種回数や時期により、接種方法が異なる場合があります。できるだけ母子健康手帳を準備・持参して、市町村や医療機関に相談してください。

市町村からのご案内（記載例）

① 接種場所	市内の契約医療機関 （○○市ホームページ　http://www.xxxxxxxxxxxxxxxxxx.lg.jp）
② 接種に必要なもの	①身分証明書（マイナンバーカード、健康保険証など） ②予診票（契約医療機関や市町村の窓口にも備え付けています） ※ 過去の接種記録が分かるよう、できるだけ母子健康手帳もお持ちください。
③ お問い合わせ先	○○市保健福祉部保健予防課 電話：○○○-○○○-○○○○（午前○時～午後○時）

平成9年度生まれ～平成15年度生まれの女性で、定期接種の対象年齢を過ぎて（高校2年相当以降）HPVワクチン（サーバリックス®、ガーダシル®）を国内で自費で受けた方に、かかった費用のうち定額の額を払い戻すことができます。詳しくは●●市ホームページをご確認ください。

健康被害が起きた時は

極めてまれですが、予防接種を受けた方に重い健康被害を生じる場合があります。HPVワクチンに限らず、日本で承認されているすべてのワクチンについて、ワクチン接種によって、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害が残るなどの健康被害が生じた場合は、申請し認定されると、法律に基づく救済（医療費・障害年金等の給付）が受けられます。

HPVワクチンに関する相談先一覧

接種後に、健康に異常があるとき	接種を受けた医師・かかりつけ医師、HPVワクチン接種後に生じた症状の診察に関する協力医療機関 ※ 協力医療機関の診断については、接種を受けた医師またはかかりつけの医師にご相談ください。
不安や疑問があるとき、困ったことがあるとき	お住まいの都道府県に設置された相談窓口
HPVワクチンを含む予防接種、インフルエンザ、性感染症、その他の感染症全般についての相談	厚生労働省　感染症・予防接種相談窓口
予防接種による健康被害救済に関する相談	お住まいの市町村の予防接種担当部門

厚生労働省のホームページでは、
HPVワクチンに関する情報をご案内しています。

厚労省　HPV　検索

HPVワクチンの接種を自費で受けた者に対する償還払いについて

- 積極的勧奨差控えにより接種機会を逃した方に対して、公平な接種機会を確保する観点から、時限的に、従来の定期接種の対象年齢を超えて接種を行う「キャッチアップ接種」について、予防接種法施行令を改正し、令和４年度より施行している。
- 他方で、積極的勧奨差控えにより、ＨＰＶワクチンの定期接種の機会を逃した方であって、既に自費で接種を受けた方も存在。こうした方に対して、市区町村の判断で費用を事後的に償還することも考えられる。
- その場合の、市区町村における標準的な取扱いについて、要綱（例）を作成し、3/18に、地方自治法上の技術的な助言として提示。標準的な取扱いとしてお示しするものであることから、各市区町村の判断により、内容を改変して実施することが可能。

対象者

- キャッチアップ接種の対象者のうち、定期接種を３回全て接種しておらず、定期接種の対象年齢を過ぎて、HPVワクチンの接種（２価、４価ワクチン）を令和４年３月31日までに自費で受けた者　※その他、市区町村が特に必要と認めた者を含む。

申請事務

- 申請は、令和４年４月１日時点に被接種者の住所が所在する市区町村に対して行う。（申請者の転居等による混乱を防ぐため 、全自治体で統一していただくよう依頼）
- 申請に必要な書類は、①接種記録が確認できる書類（母子健康手帳や予診票の写し等）及び②接種費用の支払いを証明する書類（領収書等）。※①については必要項目を満たしていれば医療機関が発行する証明書も受付可

償還額

- 被接種者が負担した実費に相当する額を支給する（最大３回接種分まで）。
- ただし、接種から年月が経過しているために、上記②接種費用の支払いを証明する書類の提出ができない者については、各市区町村のHPVワクチンの定期接種に係る基準単価を根拠として定める額とする。

申請期間

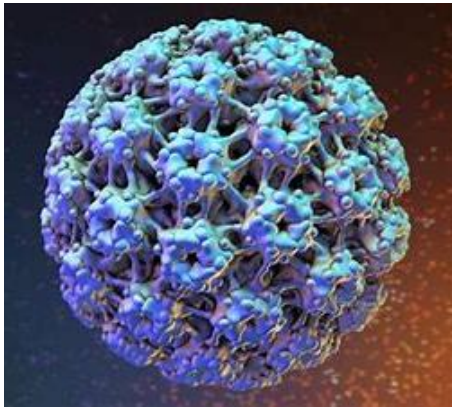
- 申請期限は、令和７年３月31日まで（キャッチアップ接種の実施期間）。
  ※市区町村で準備ができ次第開始することとし、一律の開始日は設けない。

第32回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会	資料5
2022(令和4)年4月27日	

（厚生労働省,第32回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会 ,2022）

子宮頸がん予防のためのHPVワクチン

子宮頸がんの原因はHPV＝Human Papillomavirus
ヒトパピローマウイルス＝ヒト乳頭種ウイルス



- 200以上の“型（タイプ）”がある
- 15種類前後が子宮頸がんの原因
  50～70%は、16型または18型が原因
- 尖圭コンジローマの90%以上は、6型または11型が原因

2価ワクチン（サーバリックス）：16、18型を予防→定期接種対象
4価ワクチン（ガーダシル）：16、18、6、11型を予防→定期接種対象

9価ワクチン（シルガード9）：16、18、6、11、31、33、45、52、58型を予防

厚生労働省のリーフレット

大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

厚生労働省

厚生労働省

HPVワクチンの接種

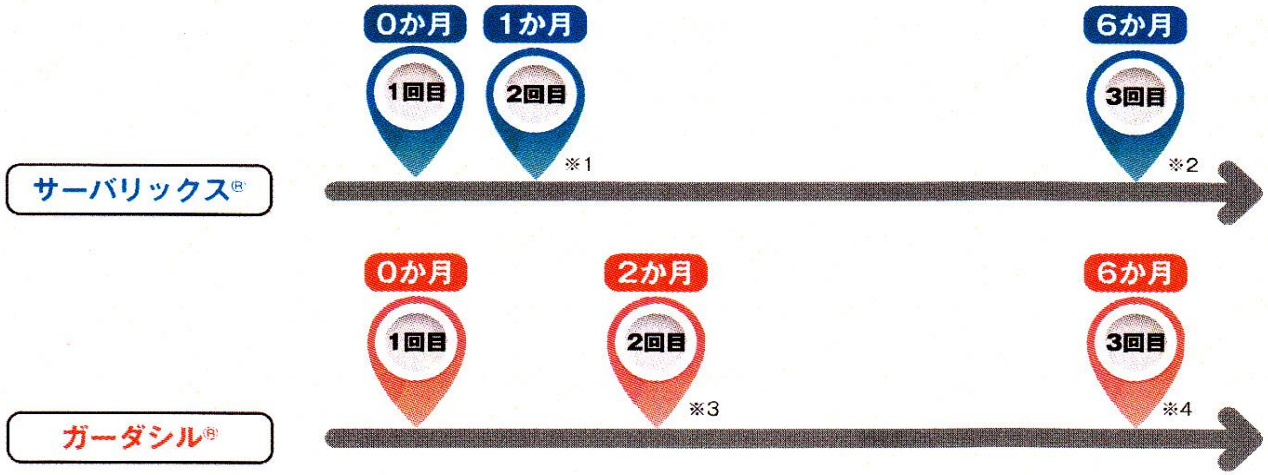
大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

HPVワクチンの接種について

HPVワクチンの定期接種の対象者は、小学校6年～高校1年相当の女の子です。
これらの対象者は公費により接種を受けることができます。

現在日本で使われているワクチンは2種類（サーバリックス®、ガーダシル®）あります。
間隔をあけて、同じワクチンを合計3回接種します。
接種するワクチンによって接種のタイミングが異なります。
どちらを接種するかは、接種する医療機関に相談してください。

＜一般的な接種スケジュール＞



※1　1回目から1か月以上あけます。
※2　1回目から5か月以上、
　　2回目から2か月半以上あけます。

※3　1回目から1か月以上あけます。
※4　2回目から3か月以上あけます。

ともに、1年以内に接種を終えることが望ましい。

厚生労働省：小学校6年～高校1年相当の女の子と保護者の方へ大切なお知らせ 詳細版より引用

研究テーマと目的

大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

テーマ： 女子大学生のHPVワクチン接種意思と
セクシュアリティに関する認知・行動
～ 看護系と一般学部生の比較 ～

目的： 日本の女子大学生の、HPVワクチン接種行動、接種意思、知識、態度とセクシュアリティに関する認知・行動について看護系学部と一般学部による差を検討する

＊ 本研究はファイザーヘルスリサーチ振興財団の「第 29回 (2020年度)ヘルスリサーチ研究助成 国内共同研究」の研究助成を受けて実施した

本研究におけるCOIはありません

研究方法

大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

➢ 研究対象大学と研究対象者の抽出

・ 看護系学部：全国の看護系大学（JANPU会員校287校）一覧から無作為に順位をつけ抽出
上位から順番に大学の学部長宛に研究協力依頼書を送付
研究協力の得られた大学を、研究対象大学とした
研究対象者が約1,000人に達するまで依頼を繰り返した

・ 一般学部：文部科学省ホームページの大学一覧から無作為に順位をつけ抽出
上位から順番に各大学の学部長宛に研究協力依頼書を送付
研究協力の得られた大学の学部を研究対象大学、学部とした
研究対象者が約1,000人に達するまで依頼を繰り返した

➢ 研究対象者

・全国の20歳以上の看護系大学大学生1,089人と、一般学部大学生899人

・各大学を通して、無記名自記式質問票を配布し郵送法で回収

研究方法

大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

➢ データ収集期間 ： 2021年4月～2021年7月末

➢ 倫理的配慮

・質問票の表紙に、同意確認項目を設け、自己にて☑することで同意の確認とした

・大阪府立大学大学院看護学研究科研究倫理審査委員会の承認を得て実施
(承認番号 2020-51)

➢ 統計解析方法

・研究参加者の基本属性、接種行動、満足の有無、知識、態度、セクシュアリティに関する認識、性行動の全調査項目について割合および代表値を記述

・看護系学部学生と一般学部学生とで接種行動、満足の有無、知識、態度、セクシュアリティに関する認識、性行動、に差があるのかについて記述

研究方法

大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

➢ 調査項目

(1) HPVワクチン接種行動

(2) 属性: 出生年、学部（看護系/その他）

(3) HPVワクチン接種意思決定の満足度

(4) 知識：子宮頸がん, HPV, HPVワクチンに関して

(5) 態度：子宮頸がん、予防ワクチン接種に対する態度尺度

（小林ら, 2016）

(6) セクシュアリティに関する認識 （VASで評価）

(7) 性行動：性交経験、初交年齢、性交人数、頻度

調査内容（質問票）

大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

女子大学生のHPVワクチン接種意思と
セクシュアリティに関する認知・行動との関連
～一般学部生と看護学部生の比較～

＊ご回答にあたってのお願い＊

＊アンケートの所要時間は **約10分** です
＊ご回答いただいたアンケートは、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、お名前を書かずに郵便ポストに投かんしてください

期限：**2021年7月末日まで**

＊別紙のアンケート依頼文をお読みいただき、研究の趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いします

アンケートへの協力への同意について

下記の □ にチェック✓してください

私はこのアンケートへの協力に

□ **同意します** ⇨ 次ページよりご回答ください

□ **同意しません** ⇨ ありがとうございました

あてはまる数字1つに○をつけてください。（　　）には数字をご記入ください。

問1. これまでに、HPV（ヒトパピローマウィルス）ワクチンを接種しましたか。

1. 接種した ➡ **問2** へお進みください
2. 接種していない ➡ **問3** へお進みください

問2. 問1で「接種した」と答えた方におたずねします。

1. はじめて接種したのはいつですか。
   1) 小学校6年生
   2) 中学校1年生
   3) 中学校2年生
   4) 中学校3年生
   5) 高等学校1年生
   6) その他　［いつ：　　歳］
   7) 覚えていない
2. これまで、何回接種しましたか。
   1) 1回
   2) 2回
   3) 3回

問3. あなたご自身についておたずねします。

1. 西暦何年生まれですか。
   西暦［　　］年生まれ
2. 学部はどちらですか。
   1) 看護系学部
   2) 看護系以外の学部

問4. HPVワクチンを「接種した」「接種していない」に関係なく、お答えください。
「接種した」「接種していない」という状況に、現在、満足していますか。

1. 満足している
2. 満足していない
3. どちらともいえない

調査内容（質問票）

大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

問5. 子宮頸がん、HPVワクチンの知識についておたずねします。
①～⑳について、知っている項目は「1」、知らない項目は「0」のどちらか1つの数字に○をつけてください。

	知っている	知らない
① 子宮頸がんの原因はHPV（ヒトパピローマウィルス）の感染である	1	0
② 年間1～2万人が子宮頸がんに罹患している	1	0
③ 近年20～30歳代の子宮頸がんは増加している	1	0
④ 子宮頸がんの治療で妊孕性（妊娠する能力）が失われることがある	1	0
⑤ 子宮頸がんも、進行すると全身に転移し、死に至るおそれのある病気である	1	0
⑥ 7～8割の女性が一生のうち一度はHPVに感染する	1	0
⑦ 子宮頸がんの主な原因は性行為（セックス）によるHPV感染である	1	0
⑧ 子宮頸がんのリスクを予防するにはコンドームが有効である	1	0
⑨ 初めてセックス（性交）した年齢が低いことは、子宮頸がんのリスク因子となる	1	0
⑩ セックス（性交）の相手が多いことは、子宮頸がんのリスク因子となる	1	0
⑪ HPVワクチンを受けた女性の性交渉率が上がったという報告はない	1	0
⑫ HPVワクチンは性行動（セックス）を開始する前に接種する方が望ましい	1	0
⑬ HPVワクチンを接種しても子宮頸がんにかかることがある	1	0
⑭ HPVワクチンは3回接種する必要がある	1	0
⑮ 日本ではHPVワクチン定期接種年齢（13～16歳）以外では自費接種となり、3回で約5万円である	1	0
⑯ 20歳以降のHPVワクチン接種も有効である	1	0
⑰ HPVワクチンの副反応として50%以上に疼痛や発赤、腫脹、疲労感などが生じることがある	1	0
⑱ HPVワクチンの副反応としてまれではあるが、頭痛や意識消失、失神などが起こることがある	1	0
⑲ HPVワクチン接種後に原因不明の痛みを主徴とする症候群が起こることがある	1	0
⑳ HPVワクチンで全てのHPV感染を防ぐことはできないので、HPVワクチン接種をした人でも、20歳以降は年に1度は子宮がん検診を受ける必要がある	1	0

問6. 子宮頸がん予防ワクチンについて次の文章がどの程度あてはまりますか？
すでに接種を受けた人も思い出して回答してください。
あてはまる数字1つだけに○をつけてください。

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらでもない	あてはまる	かなりあてはまる
① 私の保護者は子宮頸がんワクチンについての知識が豊富である	1	2	3	4	5
② 私の家族は健康や医療の情報を多くもっている	1	2	3	4	5
③ 家族の中での会話に、子宮がん検診や乳がん検診の話題があがることがある	1	2	3	4	5
④ 私の家族は人間ドックや健康診断を定期的に受けている	1	2	3	4	5
⑤ 私の家族は健康を価値あるものだと考えている	1	2	3	4	5
⑥ 私の保護者は私がワクチン接種を受けるようにすすめている	1	2	3	4	5
⑦ 保護者と子宮頸がん予防やワクチンについての話をしたことがある	1	2	3	4	5
⑧ 私の友達の半分ほどはワクチン接種を受けている	1	2	3	4	5
⑨ 接種に付き添う保護者に、都合をつけてもらうことができる	1	2	3	4	5
⑩ ワクチン接種の時間を確保するために、部活、習い事、塾、アルバイトなどの調整をすることができる	1	2	3	4	5
⑪ 接種できる病院や予約方法を自分で調べることができる	1	2	3	4	5
⑫ ワクチン接種の代金を保護者または自分が用意することができる	1	2	3	4	5
⑬ 子宮頸がんは命にかかわる怖い病気だと思う	1	2	3	4	5
⑭ 子宮頸がんはあまり重い病気ではないと思う	1	2	3	4	5
⑮ 子宮頸がんにかかり、子どもが産めなくなることは私にとって重大な問題である	1	2	3	4	5
⑯ 性行動によってうつるものなので、将来のためには早めに打っておいた方がよいと思う	1	2	3	4	5
⑰ 一般的に、中高生は予防のためにワクチンを接種した方がよいと思う	1	2	3	4	5
⑱ 子宮頸がんについてもっと知りたいと思っている	1	2	3	4	5
⑲ 子宮頸がんにかかった人の話を聞いて怖いと思ったことがある	1	2	3	4	5
⑳ このワクチンは強制的ではないので必要性を感じない	1	2	3	4	5
㉑ ワクチン接種を受けなくても、予防できると思う	1	2	3	4	5
㉒ 接種することについての保護者の許可を得るのが難しい	1	2	3	4	5
㉓ ワクチン接種が受けられる病院やクリニックが少ない	1	2	3	4	5
㉔ 発売されたばかりのワクチンなので接種に不安を感じる	1	2	3	4	5
㉕ ワクチンの副作用が心配である	1	2	3	4	5

調査内容（質問票）

大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

㉖ ワクチンが本当に効くのか、効果に疑問がある	1	2	3	4	5
㉗ 忙しくてワクチン接種を受けに行く時間がない	1	2	3	4	5
㉘ 3回のワクチン接種はめんどうである	1	2	3	4	5
㉙ 自分が接種を受ける場合に負担するワクチンの代金が高い	1	2	3	4	5

問7. HPVワクチンを「受けた」「受けていない」に関係なくお答えください。HPVワクチンを、受けた理由/受けていない理由について、あてはまる数字すべてに○をつけてください。

1. 親の勧め
2. 医療者からの勧め
3. 学校の先生からの勧め
4. 入学教員からの勧め
5. 親や医療者、学校の先生以外からの勧め
6. 小・中・高等学校の性教育
7. 大学の性教育
8. 友達の接種
9. 接種にかかる費用（無料・有料）
10. 自分がHPVに感染するリスクの大きさ
11. 自分が子宮頸がんにかかるリスクの大きさ
12. HPVワクチンの有用性
13. HPVワクチンや子宮頸がんなどに関する十分な知識や情報
14. 社会への啓蒙
15. 副作用の問題
16. 子宮頸がんやワクチンに対する関心の高さ
17. 自身の性の価値観　[　　]
18. 市町村からの無料クーポン
19. その他　[　　]
20. 特に影響した要因はない

問8. 現在のセクシュアリティに関する認識についておたずねします。
セックス（性交）することで起こりうる妊娠・性感染症・子宮頸がんの可能性について、現在のあなたの考えを左も両端に示した言葉を参考に、直線上に「/」で示してください。
（線の外に印をつけることはできません）

[記入例]　絶対妊娠しない ├──────/──────┤ 絶対妊娠する

1. 自分がセックス（性交）することで妊娠する可能性はどれくらいと考えていますか。

絶対妊娠しない ├──────────────┤ 絶対妊娠する

2. 自分がセックス（性交）することで性感染症にかかる可能性はどれくらいと考えていますか。

絶対感染しない ├──────────────┤ 絶対感染する

3. 自分がセックス（性交）することで子宮頸がんにかかる可能性はどれくらいと考えていますか。

絶対にかからない ├──────────────┤ 絶対にかかる

問9. あなたの性行動についておたずねします。
あてはまる数字1つだけに○をつけ、[　　] には数字を記入してください。

1. セックス（性交）の経験がありますか。
   1）経験あり　➡ 問9-2へお進みください
   2）経験なし　➡ 問10へお進みください

2. 問9-1で「セックス（性交）の経験がある」と回答した方におたずねします。
   1）初めてセックス（性交）を経験したのは何歳の時でしたか。
   [　　]歳
   2）これまでにセックス（性交）をした人数はどれくらいですか。
   （1）1人
   （2）2人以上
   3）普段のセックス（性交）の頻度はどれくらいですか。
   （1）毎日
   （2）週2～3回
   （3）週1回
   （4）1か月1回
   （5）上記以外

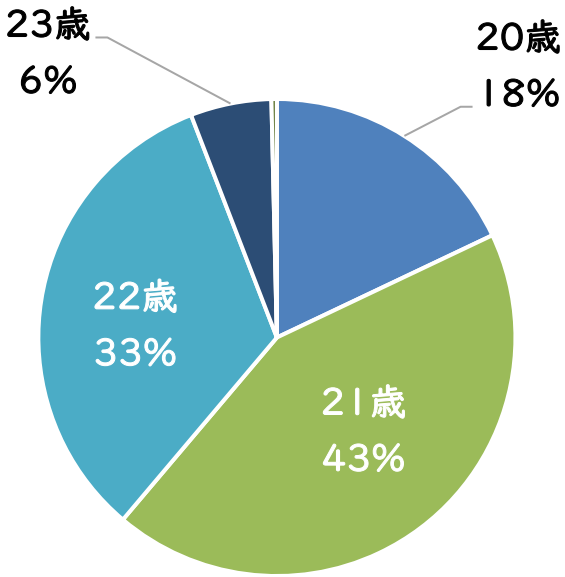
問10. HPVワクチン接種に関して、あなたの考えに最も近いものの数字1つだけに○をつけてください。

1. セクシュアリティの認知と行動について自己決定する前であっても、HPVワクチンは接種推奨年齢時点で接種するべきだ
2. セクシュアリティの認知と行動について自己決定した後で、HPVワクチンを任意接種するべきだ
3. セクシュアリティの認知と行動に関係なく、ワクチンを打つか打たないかを自己決定するべきだ

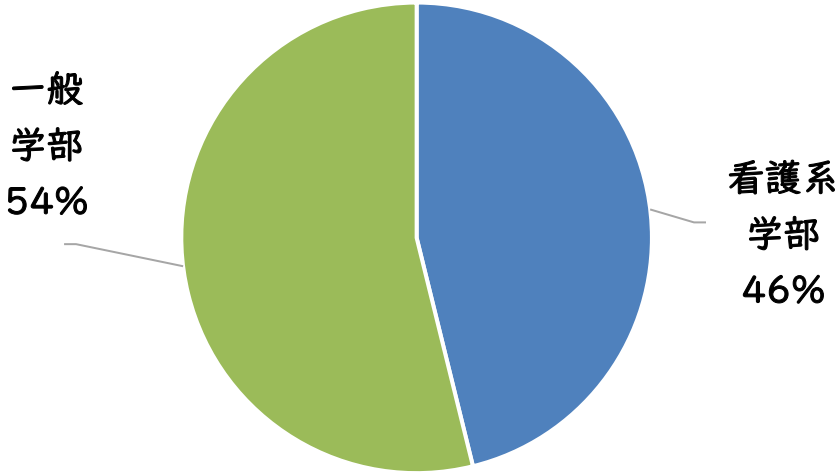
アンケートは以上です。
ご協力いただき、ありがとうございました。

結果：属性

- 1,988人（看護1,089人、一般899人）に調査票を配布
- 301 人(15.1%)から返信あり
- 同意あり、有効回答273人（看護126人、一般147人）を解析



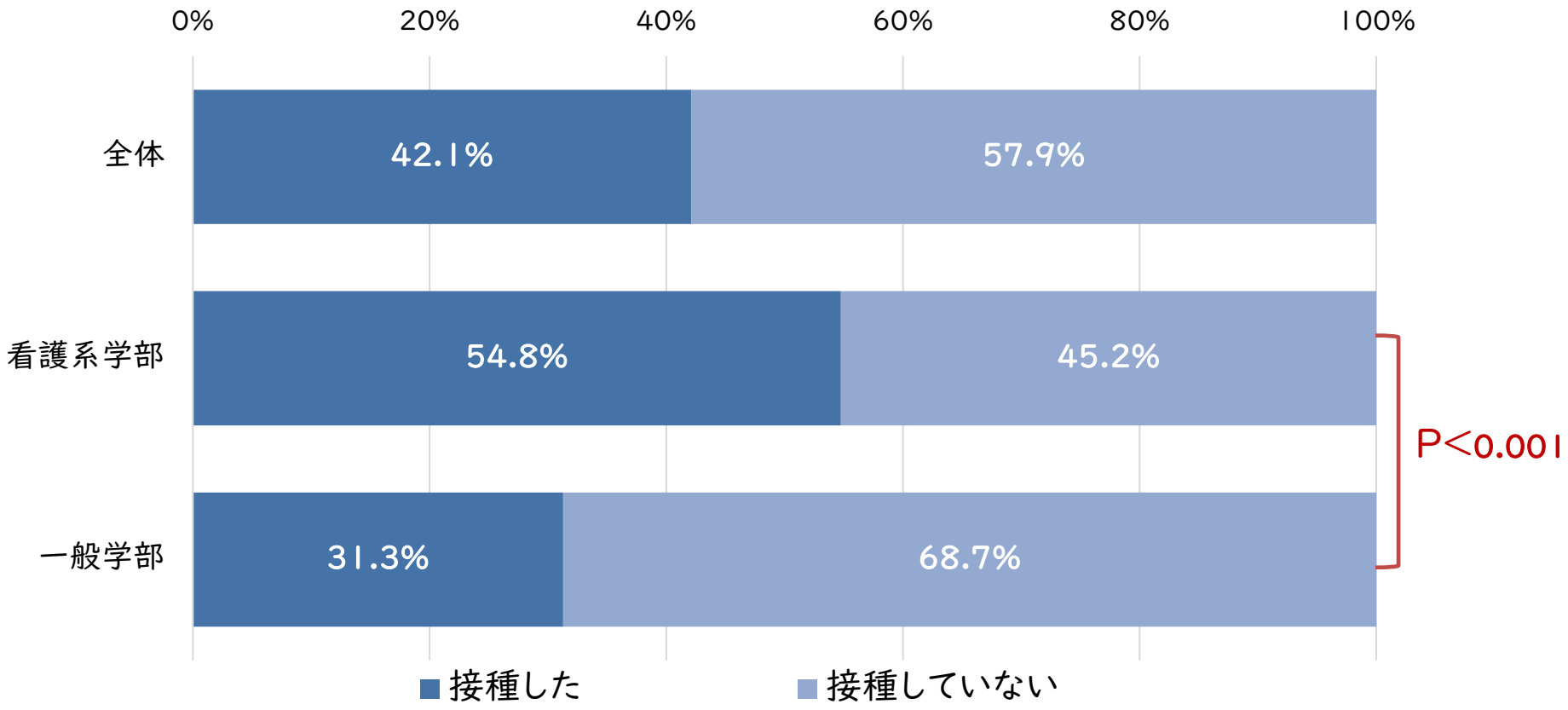
年齢



学部

結果：HPVワクチン接種行動

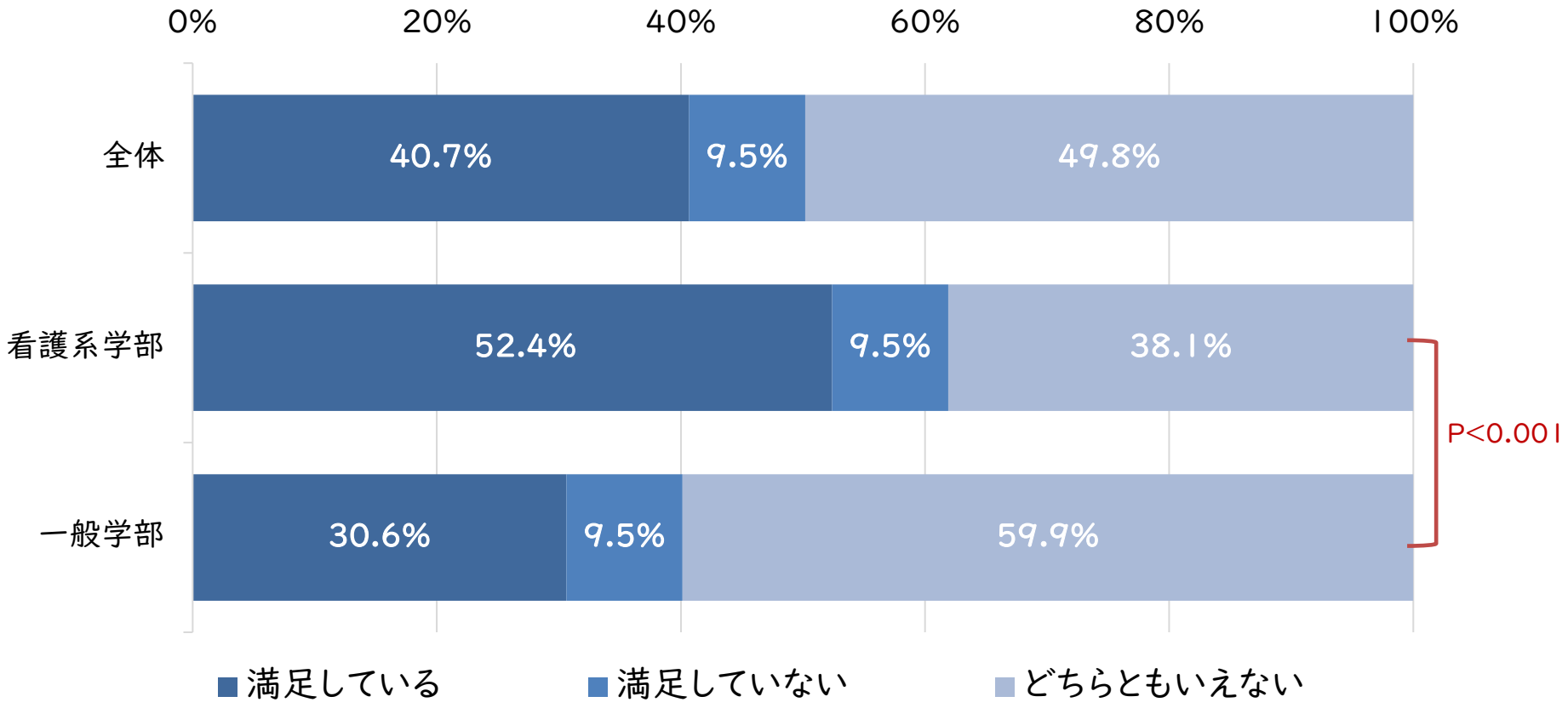
大阪公立大学
Osaka Metropolitan University



HPVワクチンを「接種した」は、看護系学部では54.8%、一般学部では31.3%で2群間で有意に差があった

結果：意思決定への満足

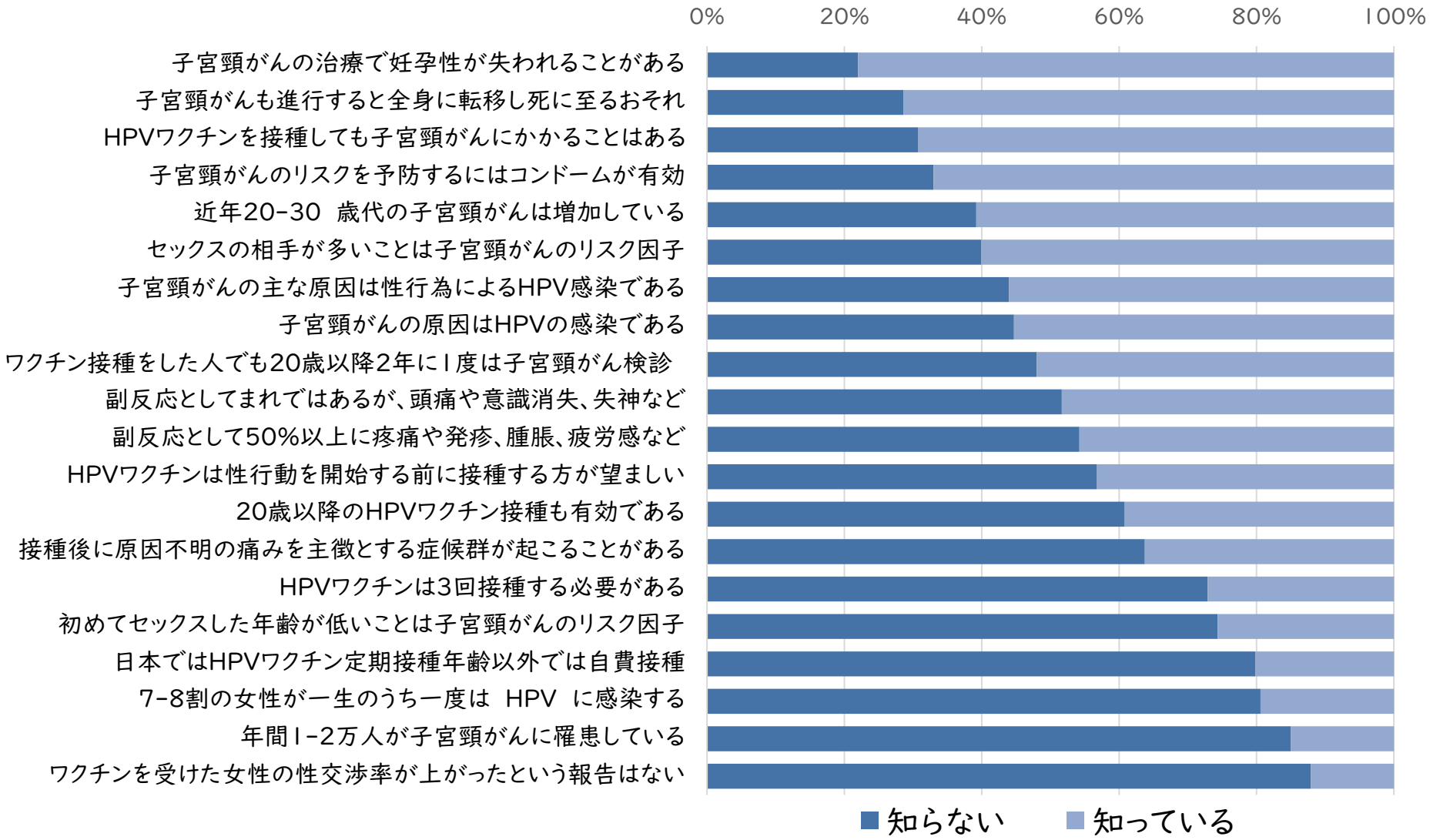
大阪公立大学
Osaka Metropolitan University



HPVワクチン接種意思決定への満足は、看護系学部の52.4%、一般学部の30.6%が「満足している」で、2群間で有意に差があった

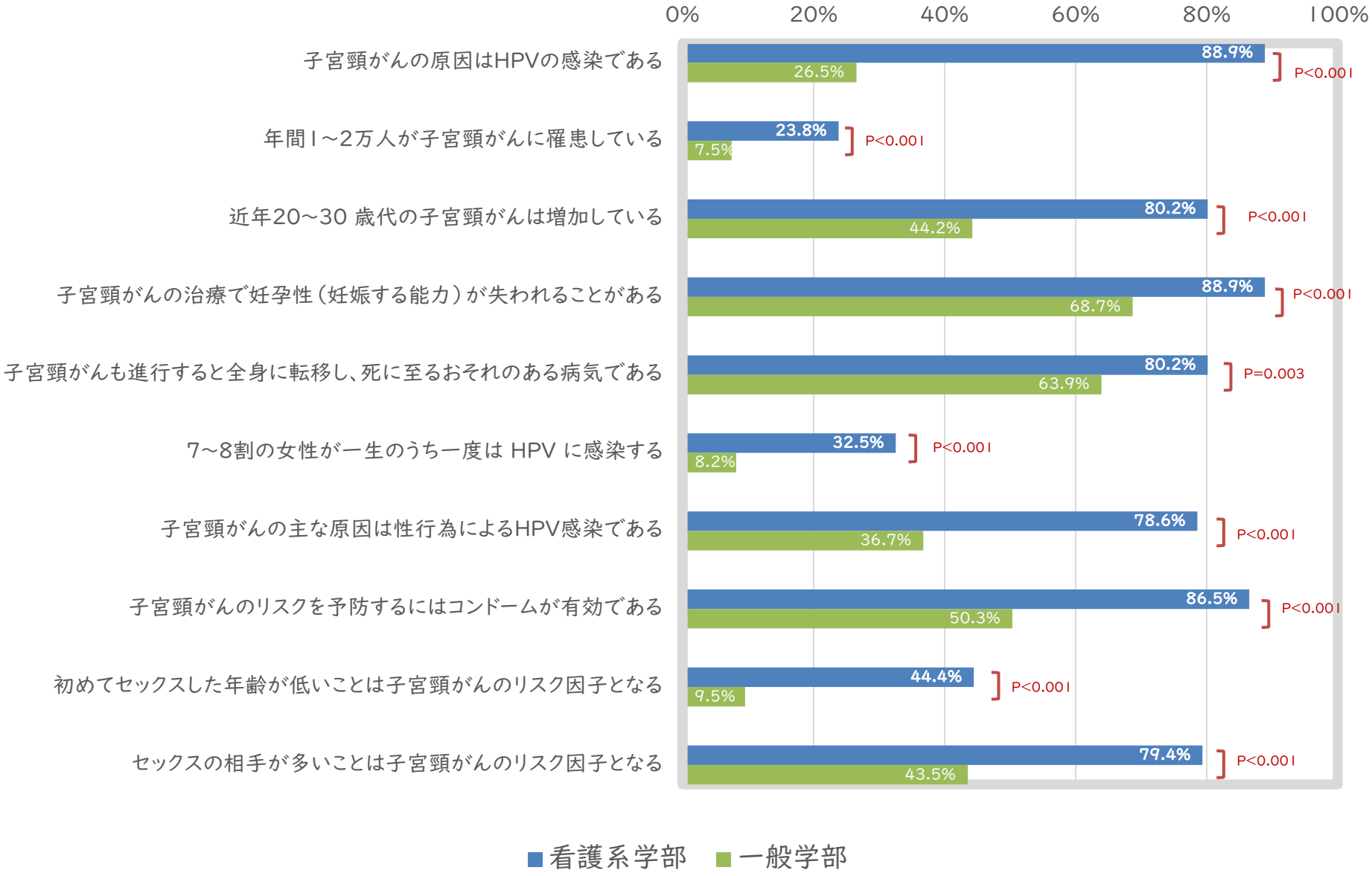
結果：知識　（知っているの多い項目順）

大阪公立大学
Osaka Metropolitan University



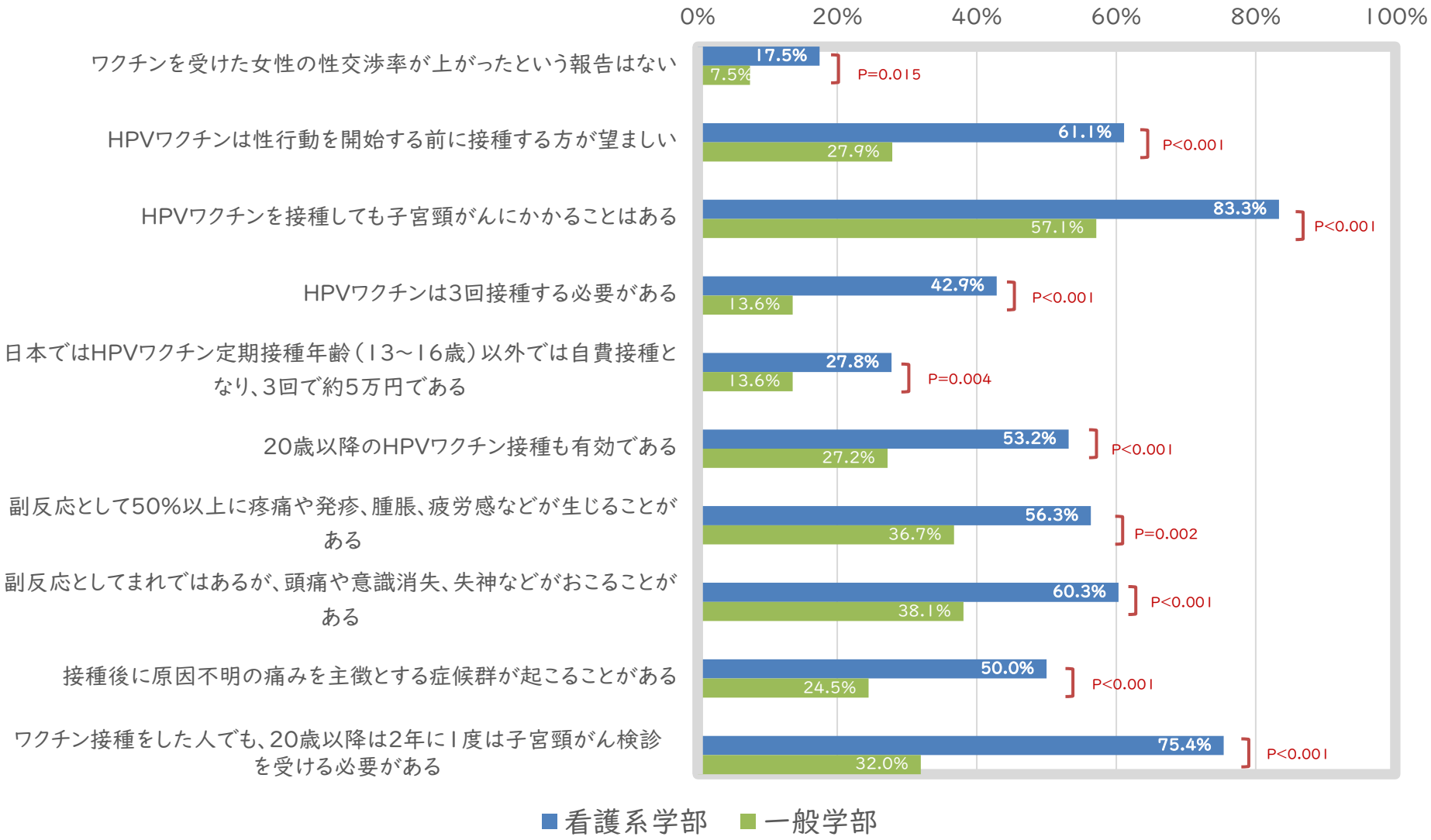
結果：知識　（学部別の比較）

大阪公立大学
Osaka Metropolitan University



結果：知識　（学部別の比較）

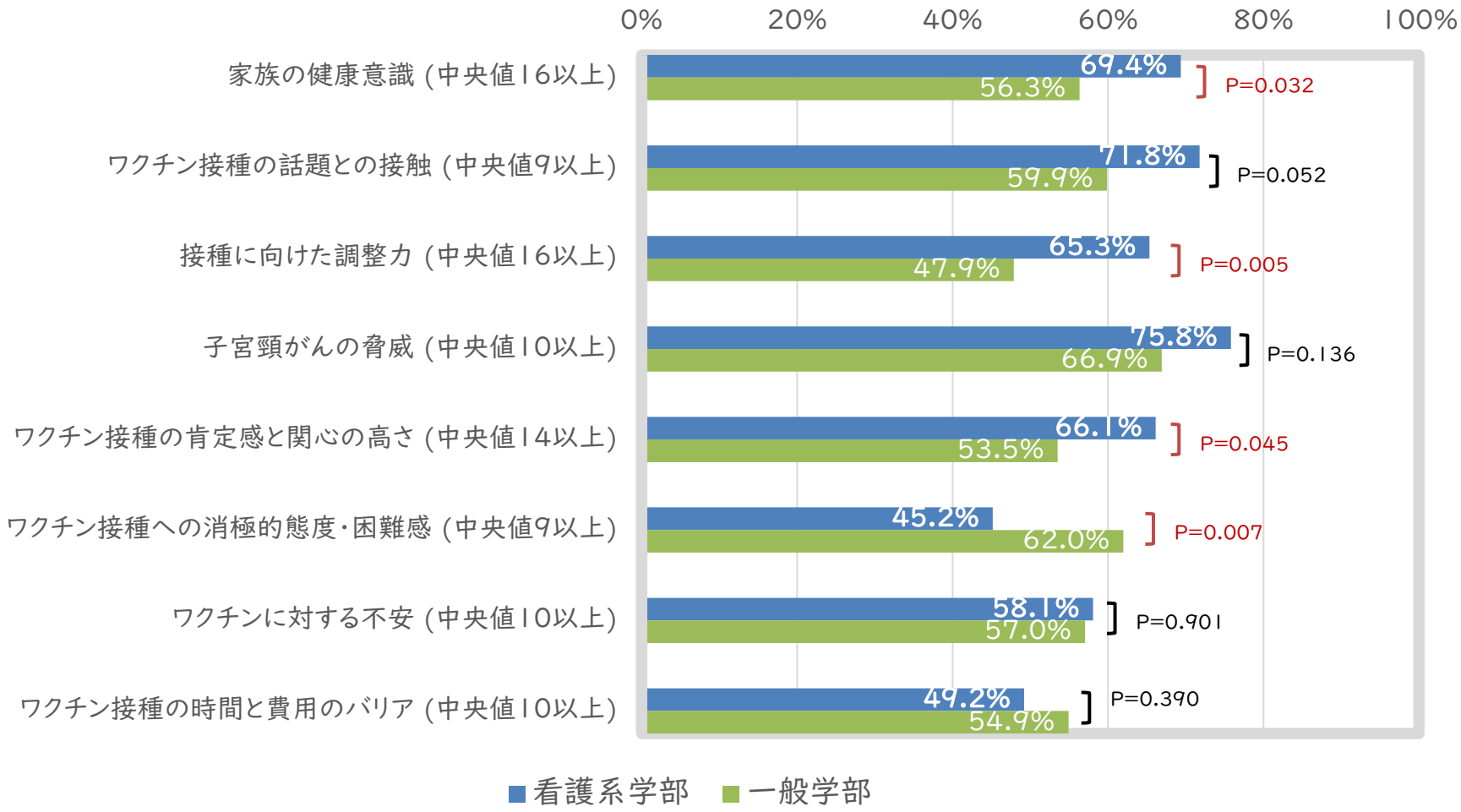
大阪公立大学
Osaka Metropolitan University



- 看護と一般の2群間で、「知識」の**全項目で有意な差**があった（$p<0.05$）

結果：子宮頸がん、予防ワクチン接種に対する態度

大阪公立大学
Osaka Metropolitan University



- 子宮頸がん、予防ワクチン接種に対する態度尺度の下位尺度、〈家族の健康意識〉〈接種に向けた調整力〉〈ワクチン接種の肯定感と関心の高さ〉〈ワクチン接種への消極的態度・困難感〉で2群間で有意な差があった（$p<0.05$）

結果：性行動

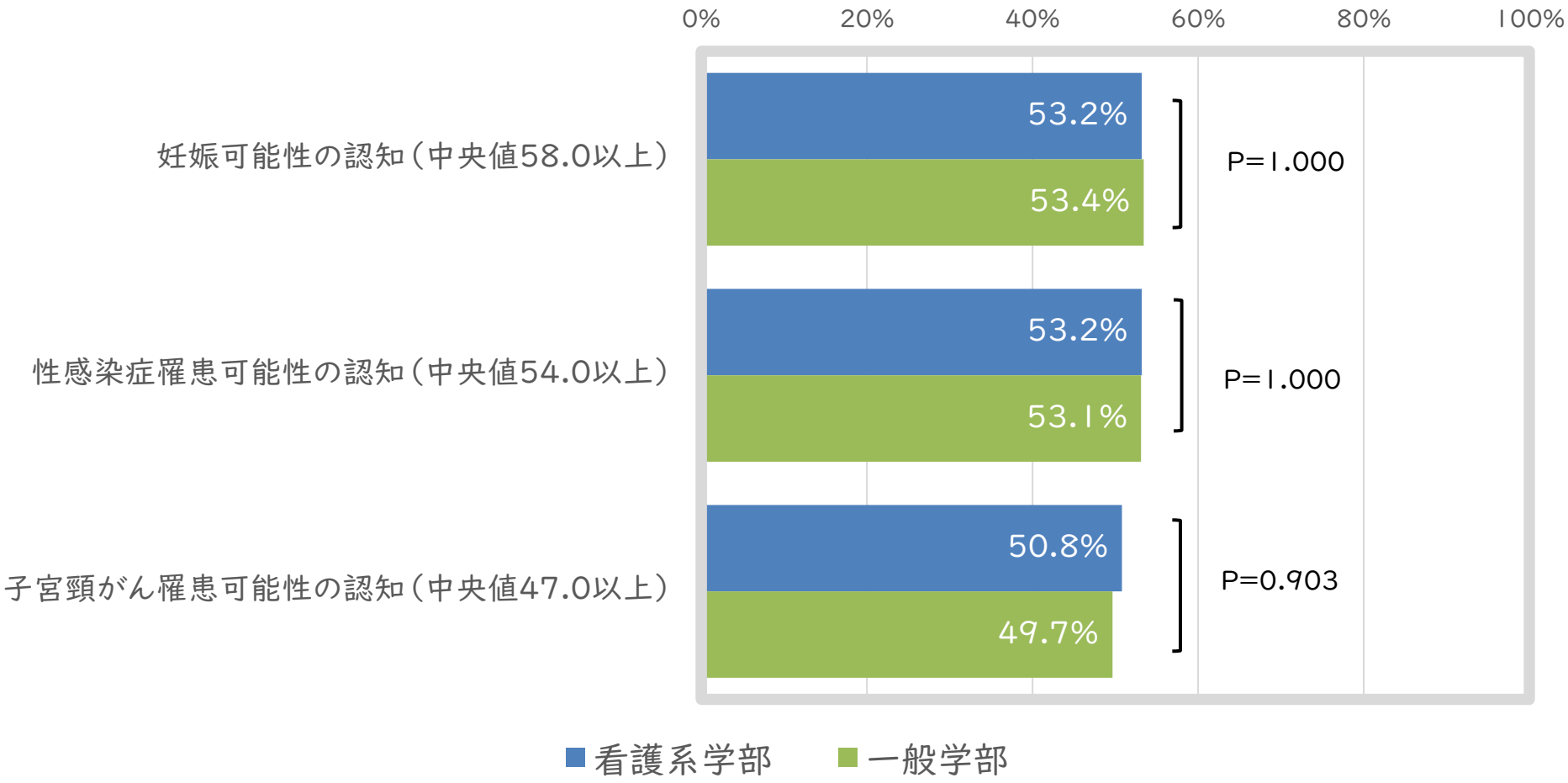
大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

	看護系学部		一般学部		
	n	(%)	n	(%)	
セックスの経験					
経験あり	65	(54.2)	64	(45.4)	P=0.173
経験なし	55	(45.8)	77	(54.6)	
初めてセックスを経験したのは何歳の時					
14歳	3	(4.8)	1	(1.6)	P=0.395
15歳	2	(3.2)	5	(8.1)	
16歳	8	(12.7)	3	(4.8)	
17歳	5	(7.9)	9	(14.5)	
18歳	10	(15.9)	12	(19.4)	
19歳	18	(28.6)	20	(32.3)	
20歳	12	(19.0)	7	(11.3)	
21歳	4	(6.3)	5	(8.1)	
22歳	1	(1.6)	0	(0.0)	
これまでにセックスをした人数					
1人	27	(41.5)	28	(43.8)	P=0.860
2人以上	38	(58.5)	36	(56.3)	
普段のセックスの頻度					
週2～3回	8	(12.7)	13	(20.3)	P=0.507
週1回	18	(28.6)	13	(20.3)	
1か月1回	18	(28.6)	16	(25.0)	
上記以外	19	(30.2)	22	(34.4)	

- 性行動に関しては2群間で有意な差がなかった

結果：セクシュアリティに関する認知

大阪公立大学
Osaka Metropolitan University



- 妊娠可能性の認知、性感染症罹患可能性の認知、子宮頸がん罹患可能性の認知は、2群間で有意差がなかった

考察

大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

- 看護系大学生はワクチン接種行動、意思決定満足、知識が有意に高かった
- 看護系大学での教育は意思決定支援や現状への満足につながっている可能性が示唆された
- 性行動やセクシュアリティに関する認知では看護系大学生と一般大学生で差はなかった
- 性的アクティビティが活発化する20歳前後の若年女性に対して、HPVワクチンの知識を提供することで、自らの意思決定と行動選択支援となる可能性が高いことが示唆された

ご清聴ありがとうございました

活発なディスカッションができれば幸甚です